

思い出なんかこれから作ればいい、これも一つの思い出

豪雨災害のボランティアで真備に行った時の家主さんの言葉

私は去年の夏、西日本豪雨災害のボランティアで真備町に行きました。私が担当した家は豪雨災害の影響で住むこともできないくらい土砂などでドロドロになっていて窓ガラスなどは全て流されてしまっていました。そして、作業中にはドロドロになった写真や服などの思い出の詰まった品々が沢山出てきました。私は思わず「こんな思い出の詰まったもの捨ててしまつて大丈夫ですか？」と家主さんに尋ねました。すると、「思い出なんかこれから作ればいい、これも一つの思い出。」と笑顔で私に言ってくれました。もちろん、過去の思い出を大切にすることも良いことです。が今この瞬間を大切にし前に進もうとする家主さんの姿が輝いて見えました。

受賞にあたって

将来、災害が起きた地域で活躍する看護師になりたいと考えているため、ボランティアに参加しました。知らない人と五人一組でグループをつくり、担当となったのはおじいさんの家でした。窓がなくなるほどの土砂が溢れかえり、思ったより大変でしたが、おじいさんから前向きなことばを聞いて、私も過去ばかりにとらわれず、新しいことに挑戦したいと思うことができました。